

第49回「ハートミーティング」意見交換の内容について

京都市職員国際協力研究会 arco iris

★参加メンバーからの主な声

- 市長からこの研究会のようなグループが立ち上がることを望んでおられたというのを聞き、大変嬉しく思った。これからもこの研究会の活動に自信を持ち、市政にも積極的に参画していきたい。
- 市長の熱く、温かいハートが伝わる様々な話を聞く事ができた。また、終始和気あいあいとした雰囲気です。市長をととても身近に感じることができた。
- 青年海外協力隊の経験者として採用された職員が将来どのように活躍するのか市長が気にしておられる様子だったので、期待に応えられるように活動に取り組むとともに、世界視野で目標を定め、かつ、地元京都にこだわる“グローバル”な職員を目指していきたい。
- 目の前のやるべき仕事は重要だが、その内容が役所の常識や日本の常識に縛られ過ぎていないかという視点を常に持ち、新たな工夫や発想を心掛けながら今後仕事に取り組んでいきたい。
- 今後、京都を更に世界にアピールし、世界各国と協働していく中で、青年海外協力隊として現地の人々と共に国づくりに携わってきた私たちの経験が活かせるだろうと市長が期待されていることを感じ、大変嬉しかった。
- 青年海外協力隊での活動経験を今の業務に直接生かすことは難しくとも、日々の仕事への取り組み方や研究会での活動等を通じて、市政に還元していきたい。
- 市長と直接話ができる機会は減多になく、とても貴重な時間であり、本来業務と自主活動である研究会それぞれについて、もっと努力しなければという動機付けになった。
- 日々の仕事に追われているとなかなか持つことができない大きな視点で物事を捉えるきっかけになった。

- 今後、まずは京都市職員としてのスキルアップを考え、多角的な視点を持てるよう努力し、そのうえで自分ができる国際貢献は何かを常に考え、取り組んでいきたい。
- 日本のみならず世界の中での京都市政を見据えておられる市長の話を聞き、自分の担当する業務が市政の中で持つ意味を改めて考える契機となった。
- 今後、留学生はもちろん、外国にルーツを持ちながら京都で生活している方々と共に地域で活動を行い、様々な視点で京都の良さを見つけてきたい。

★市長からのコメント

- 青年海外協力隊の経験者の採用を始めてから、このような職員グループが生まれることを待ち望んでいた。本当に嬉しく思う。
- 世界を視野に目標を定め、かつ、徹底的に地元の京都にこだわる。常に世界を意識する一方で、足元の京都をしっかりと固めて行動することが重要である。
- 今の閉塞的な状況にある日本では、世界を視野に目標を定めて行動している人や組織が元気なのではないか。京都がモデルとなり、この閉塞感を打破していけるよう、皆さんの力を存分に発揮してほしい。
- 世界を舞台に活躍されていた研究会の皆さんには、是非京都市政をリードして行ってほしい。
- 京エコロジーセンターと連携したイベント「えこいん話」は素晴らしい取組である。今後更に積極的にPRし、ますます発展させて行ってほしい。